

AML-05およびAML-P05臨床試験参加施設および同意をいただいた患者様およびその代諾者の方々へ検体利用のお知らせ

2015年9月17日

JPLSG AML 委員会

委員長 多賀 崇

研究担当者 朴明子

AML-05およびAML-P05臨床試験では皆様の同意を得て、将来の医学の発展、治療法の開発へ貢献する目的で、腫瘍細胞、DNA、RNAの保存を行っております。

小児急性骨髄性白血病(AML)の発生には癌遺伝子、癌抑制遺伝子、細胞増殖関連遺伝子の異常が関与し、それぞれの遺伝子がAMLの発症や進展と関連することが報告されています。予後不良例においては同時に複数の遺伝子異常が存在することも多く、臨床情報と遺伝子異常を比較検討することにより、予後因子となる遺伝子異常を抽出することができ、これらは治療方針を決定する上で極めて重要であり、治療成績の向上と副作用の軽減につながります。

近年、AMLを含む骨髄性疾患で新しい遺伝子異常が次々とみいだされ、予後との関係が報告されました。今回は、AML-05とP05に登録された小児AMLにおいて、最近報告された遺伝子の発現と異常の解析およびこれまでの全エクソン解析で抽出された新規遺伝子異常を解析し、その頻度と臨床的意義の研究を追加で行います。本研究ではAML-05およびAML-P05臨床試験で保存された、細胞、ゲノムDNAを用いて解析を行い、病因、予後にかかわる因子を抽出し、今後の治療法開発に役立てたいと考えています。

これまでに*CALR*, *CSF1R*, *CSF2R*, *IKZF1*, *SETBP1*遺伝子につき検討を行ってきました。また、*NUP98-NSD1*融合遺伝子の発現アレイより、*MEL1*, *EVII*遺伝子と*HOX*関連遺伝子の高発現を示す一群を同定し次世代シーケンサーを用いてRNA-sequencingを行い、融合遺伝子等を検索し、臨床的意義を検討してきました。

今回は、次世代シーケンサーなどの解析により抽出されたFUS-POLE、HOXA10-HOXA_AS3、HOXA9-HOXA_AS3、PRDM16-SKI融合遺伝子やBMP, SOCS遺伝子などにつき、AML-05 と P05に登録された小児AMLにおいて、発現や異常の頻度と臨床的意義の解析を行い、今後の治療成績の向上に貢献する予定です。

今回の調査への協力は難しいと思われる患者さまにおかれましては、主治医にご連絡頂ければ研究代表者及びデータセンターに連絡し、該当する資料を確認した上で削除致します。尚、このようなお申し出により、患者さまの診療上の不利益が生じることはございませんので、どうかご安心下さい。

ご不明の点につきましては、研究担当者までご連絡下さい。

お問い合わせ先

群馬県立小児医療センター 血液腫瘍科 朴明子

〒377-8577 群馬県渋川市北橘町下箱田 779

電話: 0279-52-3551 FAX: 0279-52-2045